

科目名称：	英語コミュニケーションⅠ（美術学科）	
担当者名：	藺森 喜美	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>これまで学校で学んできた英語を基礎から復習しながら、日常英会話の基礎を学びます。旅の様々な場面別に重要フレーズを学習し、コミュニケーションに必要な英語力を身につけていきます。発音については発音記号をよく知り、それに基づいて正しく発音できるように練習をします。また、英文の構造についても、基本からゆっくりと理解できるように説明していきます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①発音記号を見て正しい発音をすることができる。②CD等聞き、リスニングの力を高める。また発音に注意を払いながら音読することで、英語の音を正しく発声する楽しさを体得する。③英語の基本的な文型について理解し、簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得たりすることができる。④日常生活での話題や簡単な説明・指示を英語で聞いて理解することができる。⑤英語で日常生活の簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べたりすることができる。⑥興味・関心のあることについて簡単な英文を書くことができる。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	0	40	50	10	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
読む	簡単な説明文を理解し、図や表から情報を得ることができる。	簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。	簡単な文章や表示・掲示を理解することがほとんどできない。
聞く	日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。	ゆっくり話してもらえば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。	簡単な文や指示を理解することができる。	簡単な文や指示を理解することがほとんどできない。
話す	日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。	身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べるができる。	簡単な文を使って話したり、質問をすることができる。	簡単な文を使って話したり、質問をすることがほとんどできない。
書く	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。	簡単な文やメモを書くことができる。	簡単な文やメモを書くことがほとんどできない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 発音記号について概説。教科書 Chapter 1 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	シラバスを読み、授業の趣旨や概要をつかむ。Chapter 1のWarm-upとVocabularyについて調べ、解答をまとめておく。	40分
第2回 発音記号(母音)概説。教科書 Chapter 2 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter1 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter2 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第3回 発音記号(子音)概説。教科書 Chapter 3 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter2 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter3 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第4回 英文構造についての概説。教科書 Chapter 4 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter3 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter4 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第5回 基本的な文構造(1)。教科書 Chapter 5 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter4 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter5 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第6回 基本的な文構造(2)。教科書 Chapter 6 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter5 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter6 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第7回 基本的な文構造(3)。教科書 Chapter 7 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter6 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter7 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第8回 基本的な文構造(4)。教科書 Chapter 8 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter7 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter8 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第9回 中間小テスト。教科書 Chapter 9 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	発音、文構造、Chapter 1-8の復習。Chapter9のWarm-up, Vocabularyについて調べる。	90分
第10回 自己紹介(1)、教科書 Chapter 10 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter9 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter10 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第11回 自己紹介(2)、教科書 Chapter 11 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter10 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter11 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第12回 自己紹介(3)、教科書 Chapter 12 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter11 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter12 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第13回 プレゼンテーション(1)、教科書 Chapter 13 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter12 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter13 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第14回 プレゼンテーション(2)、教科書 Chapter 14 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter13 Phrase1, 2, 3の英文を3回音読し筆写する。Chapter14 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	40分
第15回 期末小テスト、教科書 Chapter 15 Warm-up, Phrase1 ディスカッションをしながら進める。Phrase2, 3	Chapter 9-14の復習, Chapter15 Warm-up, Vocabularyについて調べる。	120分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、指定範囲の音読練習をし、解答や筆写をノートにまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 評価配分は、以下のとおりである。
小テスト 40%、課題 20%、期末課題 30%、授業中の言語活動の積極的参加 10%

課題に対するフィードバック

小テスト、課題プリントは評価し返却する。

教科書・参考書

教科書: Simply Traveling Communication Anytime, Anywhere! (金星堂)
事前事後学修および授業内において参照しコミュニケーション活動の題材とする。